

# 4 学年 算数科指導案

児 童 小樽市立望洋台小学校 4 年 3 組  
男子 19 名 女子 16 名 計 35 名  
指導者 教諭 田村 雅 嘉  
(使用教科書 教育出版)

## 1、単元名 小 数 - ①

### 2、単元について

#### (1) 単元のおさえ

小数の意味については、前学年で、端数部分の大きさを表すのに 1 より小さな単位として、 $1/10$  (0.1) を用い、小数を具体的な量で表すことを学習してきた。また、加法・減法については、小数を数直線上で考察するとともに、簡単な計算をその上で対応させてみることや小数点をそろえることが各単位をそろえることになること、そして、繰り上り、繰り下がりのある計算が整数のときと同じようにできることなどの内容を学習してきた。

そこでこの単元では、1 より小さい部分の大きさを  $1/10$  (0.1)、 $1/100$  (0.01)、 $1/1000$  (0.001) を単位として表し、小数も整数と同じ仕組み、つまり十進位取り記数法で表されていることを理解させ、整数、小数を十進数として一貫したものとしてとらえさせる。加法・減法の計算にあたっては、小数の場合にも、整数と同様に演算が決定されることや筆算の原理や手順がなりたつこと、計算規則も小数に適応できることを理解させる。これらが、単元のねらいとなる。

指導に当たっては、前学年では、扱う小数が  $1/10$  の単位であったため、小数点をそろえて計算すること、つまりそれぞれの単位としての意識にも配慮が必要である。 $1/10$  より、更に小さい単位で表すには、整数を 10 ずつまとめて一つ大きな単位を用いたように、10 等分して一つ小さな  $1/10$  (0.1) の単位で表したことを結びつけて考え、数直線などを用いて視覚的にも理解の手だてを図り、それぞれに単位としての意識を持たせていきたい。

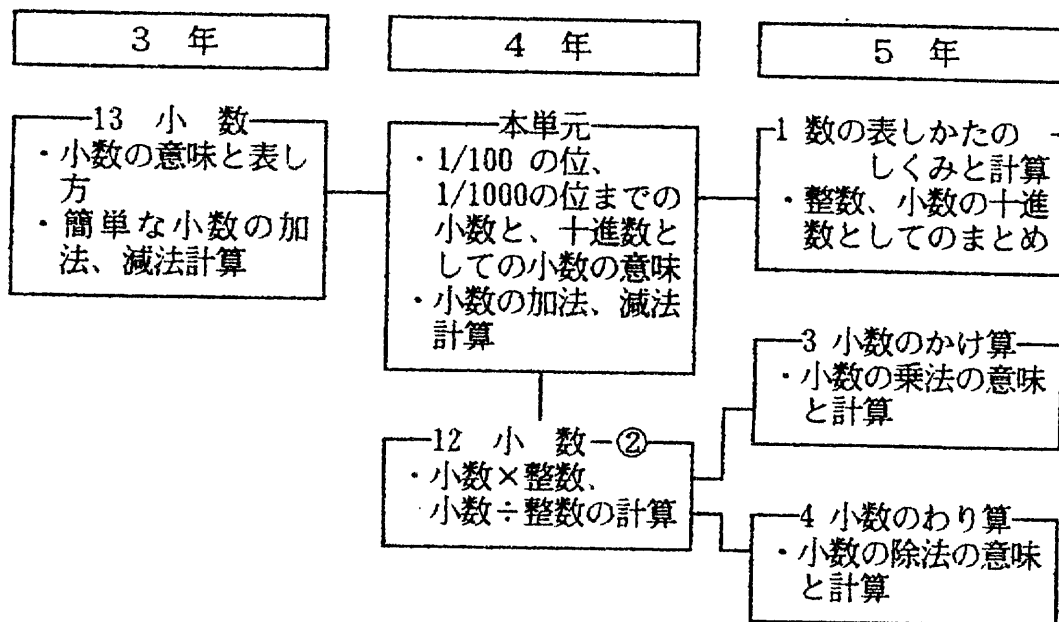
また、形式的な計算の指導にならないように、出来るだけ身近で具体的な場面で考えさせることと、小数の基本的な仕組みを振り返る説明を大切にしていきたい。ここでは、小数の加法・減法が完成されなければならないためである。

この単元でも、重点を置くことの一つには、自力解決以前の見通しをどう子供

たちにとらえさせていくかがある。中学年で中心に扱っているのは「結果の見通し」である。特に、計算の場面においては、この取り組みが子供たちの自力解決や、その後の練り合いの充実に及ぼす効果は高いものと考えられる。自力解決の中では、見通しと比較して自分の解決の方法に自信を持ったり、方法の変更を考える子供達がいることと思われる。その思考の過程を大切にしていきたい。練り合いでも、見通しとの兼ね合いや思考の変化の過程を表現させながら、収束へとつなげたい。

目標を設定した指導があれば、そこには必ず評価の手だてが必要となる。評価に関しては、学習内容に関わる評価と学習の取り組みに対する情意的な評価の両方を扱っていく。内容に関わる評価では、その時間の目標を意識した練習問題を設定し、全体の理解を確認するめやすとする。情意面の評価では、中学年用の自己評価カードを用いていく。自力解決の過程などは、個人カルテを用い、教師側の評価の資料として、次の過程や次時に生かしていきたい。

## (2) 指導の系統



## (3) 児童の実態

学級の子供達は、何事についてもその子なりの地道な努力は見られるものの、重点に示されているような自ら積極的に物事に立ち向かい、解決していく態度までは十分に育っていない。

算数の学習では、まず、1時間の学習で取り組む課題をつかむことができなかつたり、表現できないなどのつまづきが見られた。そこで、校内研で検討されてきた問題文理解の方策である具体物の利用や大切な部分へのアンダーライン記入などの

手だてを取りながら、解決すべき内容と既習部分を分けて考え、そこから1時間の課題を作っていく取り組みを続けてきた。多くの児童は、未習部分の気付きについて向上は見られるものの、表現は教師の助言も交え学級全員で補い合って作るにとどまっている。

解決への意欲ということでは、次時への見通しや問題の内容の工夫などで解決意欲を促そうとしてきた。自力解決での様子を見ると、多くの児童が何らかの方法や考えにより、自分なりの解決に到達できるようにはなってきた。しかし、練り合いの場面では、賛成や反対、またはよく分からないなどの態度は表せても、その時自分が困っている具体的な内容を表現できなかつたり、友達の発表からつかんだことや考えが変わった部分を表現できないなど、改善していかなければならない点は多くある。これに対し、現在、学級である程度共通した答えの見通しを持ち解決に望むということで、自信を持たせるよう取り組みを行っている。

### 3、単元の目標

- (1)  $1/100$  の位 (小数第2位)、 $1/1000$  の位 (小数第3位) の小数の表し方、読み方、相対的な大きさについて理解させる。
- (2) 小数も整数と同じように十進位取り記数法にもとづいていることの理解を深める。
- (3) 小数の加法、減法を理解させ、計算技能の習熟を図る。

#### <知識・理解>

$1/100$ 、 $1/1000$  の位までの小数の読み方、書き方ができる。

- ・複名数で表された測定値を小数による単名数で表すことができる。
- ・小数の各位の大きさを0.1 0.01 0.001などを基に表すことができる。
- ・ $1/100$  を小数第2位、 $1/1000$  を小数第3位ということがわかる。
- ・位がそろっている小数や位の異なる小数の加減の計算方法が言える。
- ・小数も整数と同じ十進数であることがわかる。

#### <技 能 >

- ・小数を数直線上に表すことができる。
- ・位のそろった小数の加減や位の異なる小数の加減ができる。

#### <数学的な考え方>

- ・十進数の原理から、小数を数直線上に表すことができる。
- ・十進数の原理から、小数の $1/10$ や $1/100$ 、10倍や100倍の数を表すことができる。
- ・整数の加減の原理を基に小数の加減ができる。

#### 4、指導計画・・・別紙

#### 5、問題解決力を伸ばすための手だて

##### (1) 問題提示や課題のとらえさせ方の手だてと工夫

###### ○問題文の吟味の方法

問題文や内容については、どの単元においても、次の観点で吟味している。

- ・児童にとって身近なもの
- ・興味関心の持てるもの
- ・解決への見通しが立てられ、抵抗感の持てるもの
- ・多様な解決方法が期待できるもの

本時では、課題を焦点化したり、機械的に位をそろえて計算することを避けるために、数値の単位を変えて提示していく。

###### ○問題提示の流れ

問題の提示は、1時間ごとの学習のつながりを意識出来る流れの中で行うことを大切にしている。

1時間の学習の最後に、「次の時間はどのような内容に取り組み解決できそうなのか。」について交流する時間を設けている。学習してみたい内容については、その1時間の学習が生かせる発展的なものやオリエンテーションでの問題を参考にした新たな問題など自由な発言としている。

予め、こうした取り組みがされていることで、子供達はだれの発表が今日に生かされるか楽しみにしたり、前時の学習が更にどのような場面で活用できるのかを意識でき、既習を生かした自力解決を促すことにつながると考えている。

前時までは、小数の意味や小数で表すことが学習内容であるので、その発展としてどのような学習内容があるのかを整数の場合と比べながら考えさせ、本時につなげていきたい。

###### ○課題について

このようにして、発表された個々の取り組みたい内容は、次の時間の課題設定の段階で一つにまとめられる。

こうした流れから、課題は、問題の場面を理解し、未習の部分に気付くこと、そして前の学習との関連を整理することで作られることになる。

本時の学習では、具体物の操作を通して問題場面を理解させた後、前時までの学習との違いを考えさせ、課題作りをしていきたい。

## (2) 自力解決や練りあいの場面での手だてと工夫

### ○答えの見通し

本時では、位を意識させることもあり、小数点以下の切り捨てによって3mから4m(5m)の範囲で見通しを持たせていくようにしたい。また、問題の理解において実際の長さをとったテープを提示することもあり、見通しの幅は狭められると思う。

かなり確かな見通しができることで、単純な計算違いの防止に、また、自分の解決への自信や修正の根拠としても効果が期待できると思う。

### ○自力解決とヒントの関わり

自力解決では、前時までの学習を生かし、どの児童も自分なりの解決に至らせた。しかし、自分の力だけでは解決できない場合も予想される。

こうした児童についてはヒントで対応してきた。本時では、位ごとの仕組みが大切であるので、ここを意識した内容にしていく。提示の仕方はコース別ヒントとし、「3年生での筆算をもとにするもの」と「整数の計算と比較して考えていくもの」、それから整数に直せない場合の手だてとして「整数への直し方」の3種類を用意していく。

### ○練り合いの充実

「練り合い」の場面では、小数の加法計算も、考え方としては整数の場合と同様であることを理解し合えるものにしていかなければならない。そのためには、整数で計算していく方法と小数のまま計算していく方法の2つに大別し、それらと比較させる取り組みを中心に進めていきたい。

整数も小数も、十進数であるので計算の仕組みや考え方は同じになるが、数の仕組みから話し合いを進めることは難しい。そこで、出来るだけ子供達の発表物を生かしながら、両者の似ているところを意識させ、そうなる理由を既習をもとに気付かせながら話し合いを進めていきたい。そして、最終的にどちらも十進数であるという理由にたどり着かせたい。

整数の仕組みを完全に理解していなかったり、小数と整数の関連をうまく表現できない児童や、機械的に位をそろえて筆算することにとられる児童も予想されるが、3年生での小数計算の学習や整数の筆算、前時までの小数の仕組みをそれぞれ整理し、理由付けを大切にした話し合いを進めていきたい。特に、小数第2位繰り上がりは、十進数としての小数を意識させるよう意図的に気付かせていきたい。

(3) 評価方法の工夫

評価は、解決努力や定着で行われる評価と学習の最後に行われる評価の2段階としている。前者は、個人カルテを用い多様な解決方法の見取りを、後者は、主に学習の理解度を見取るために行う。尚、カルテは、練りあいの場面でも積極的に活用していきたい。

また、児童が自分自身の取り組みを振り返り、向上を促す自己評価も学習の終わりに実施する。

自己評価は、中学年の自己評価カードに記入する方法で行われている。

自己評価カードの内容

- ・本時の課題
- ・問題文の理解度
- ・自力解決とヒント
- ・オリエンテーションとの関わり
- ・友達の解決との関わり

6、本時の学習指導

(1) 本時の目標

位がそろっている小数第2位までのたし算の仕方を理解できる。

(2) 本時の展開

	教師の活動	児童の活動	理解の手だて
課題設定	1. 前時の見通しの確認 ・今日は、どんな学習を試してみたいということでしたか。 2. 問題提示	・小数のたし算 ・小数のひき算	
	○○君は陸上記録会で幅跳びに挑戦しました。最高の記録は、2.25mでした。 しかし、△△君は、○○君よりも156cm遠くへ跳ぶことができたということでした。 △△君は、何m跳んだのでしょうか。		
	3. 問題理解 ・目で読みましょう。 ・指名読み ・○○君の記録は何メートルですか。 ・△△君はどのくらい跳ぶことができたのですか。 ・△△君の跳べた記録は、どうすると分かるのでしょうか。	・問題文を読み、場面を理解する。 ・2.25メートル ・156cm遠くへ ・合わせた長さを出せばよい。 ・単位が違うので、どちらかにそろえる。	・具体物を用いて

課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数+整数はもう学習したね。どちらの単位にしますか。</li> <li>・式を考え発表して下さい。</li> </ul> <p>4, 課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の課題は、どんな内容になるのでしょうか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">       小数第2位までのたし算の仕方を考えよう。     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メートルにそろえて計算したほうがいい。</li> </ul> <p>・ <math>2.25 + 1.56</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小数第2位までのたし算は学習していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名による</li> <li>・156cmを小数に直したことから</li> </ul>
解決努力	<p>5, 答えの予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何メートルくらいかな。</li> <li>・半端な部分を切り捨てて考えよう。</li> </ul> <p>6, 実態把握 ハンドサイン</p> <p>7, 自力解決</p> <p>机間巡視 個別対応</p> <p>8, 発表をする児童を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3メートルくらいになるだろう。</li> <li>・4メートルにはならない。</li> </ul> <p>&lt;予想される考え方&gt;</p> <p>a, 0.01の単位を基にして</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>225 + 156 = 381</math></p> <p style="margin-left: 20px;">答え 3.81m</p> <p>b, 100倍して</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>225 + 156 = 381</math></p> <p style="margin-left: 20px;">381の1/100は3.81</p> <p>c, 位ごとにたし算して</p> <p style="margin-left: 20px;">① <math>2 + 1 = 3</math> 1mが3つで3m</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>2 + 5 = 7</math> 0.1mが7つで0.7m</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>5 + 6 = 11</math> 0.01mが11つで0.11m</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>3 + 0.7 + 0.11 = 3.81m</math></p> <p style="margin-left: 20px;">② <math>2 + 1 = 3</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>0.5 + 0.2 = 0.7</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>0.06 + 0.05 = 0.11</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>3 + 0.7 + 0.11 = 3.81m</math></p> <p>d, 小数の筆算で</p> $\begin{array}{r} 2.25 \\ + 1.56 \\ \hline 3.81 \end{array}$ <p>e, cm単位を基にして</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>225 + 156 = 381</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>381cm = 3.81m</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数部分を意識させて</li> <li>・ヒントの活用</li> </ul>
定着	<p>9, 発表させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、発表してもらいます。</li> </ul> <p>10, 話し合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問はないですか。</li> <li>・どの考えが一番よいでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや方法を発表し合う。</li> <li>・不明な点を質問する。</li> <li>・早く簡単で正確な方法を選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボードに発表内容を整理したものを使い</li> <li>・理由付けを大切に</li> </ul>

定 着	<p>* 整数に直して計算すると、今までのたし算と同じように計算できる。</p> $\begin{array}{r} 2.25 \text{ を } 100 \text{ 倍すると } 225 \\ 1.56 \text{ を } 100 \text{ 倍すると } 156 \\ \hline 381 \text{ の } 1/100 \text{ は } 3.81 \end{array}$	<p>整数のたし算と同じように位をそろえて小数のまま計算すると方法と、小数を整数に直して計算し、後から小数にする場合とでは、繰り上がりや数字の操作も同じになることを意識させる。</p>	
	<p>* 小数のまま筆算の方が簡単と思う。2つを比べると、違いは「小数点のある・なし」だけだ。</p> $\begin{array}{r} 2.25 \\ +1.56 \\ \hline 3.81 \end{array}$		
着	<p>* 3年生で学習した小数第1位までの筆算も、整数と同じように位をそろえて計算することができた。</p> <p>* 整数の筆算では、一の位・十の位・百の位と、位ごとに計算していくが、小数第2位までの場合でも1の位・0.1の位・0.01の位と、位ごとに計算して行けばよいのではないか。</p> $\begin{array}{r} 2 + 1 = 3 \\ 0.2 + 0.5 = 0.7 \\ 0.05 + 0.06 = 0.11 \\ \hline 3.81 \end{array}$	<p>・1/100の位を意識させる。 ・2と0.2, 0.5と0.05の比較</p>	
	<p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>小数第2位までのたし算は、 位をそろえると、小数として計算できる。</p> <math display="block">\begin{array}{r} 2.25 \\ +1.56 \\ \hline 3.81 \end{array}</math> </div>		
習熟・応用	<p>11, 練習問題提示 12, 自己評価させる 13, 次時への見通し ・次の時間はどんな学習がしたいですか。</p>	<p>・練習問題に取り組む ・カードに記入する。  ・次は、ひき算をやってみたい。 ・小数第3位までの計算をしてみたい。</p>	<p>・本時に取り上げた問題と類似の内容  ・自由に</p>

(3) 評価

位がそろっている小数第2位までのたし算の仕方を理解できたか。

7. 資料

- (1) ヒント 「ヒント0」 小数第1位までのたし算をさんこうにする人 ヒント1  
 整数の計算と比べて考える人 ヒント2  
 整数の直し方でこまっている人 ヒント3

\*このほか、学習表もさんこうになるね。

「ヒント1」 
$$\begin{array}{r} 2.2 \\ + 1.5 \\ \hline \square.\square \end{array}$$
 こんな学習をしましたね。  
 筆算のきまりなど、今日の学習に生か  
 せることがありますね。

「ヒント2」 整数のたし算は、位ごとに計算していました。  

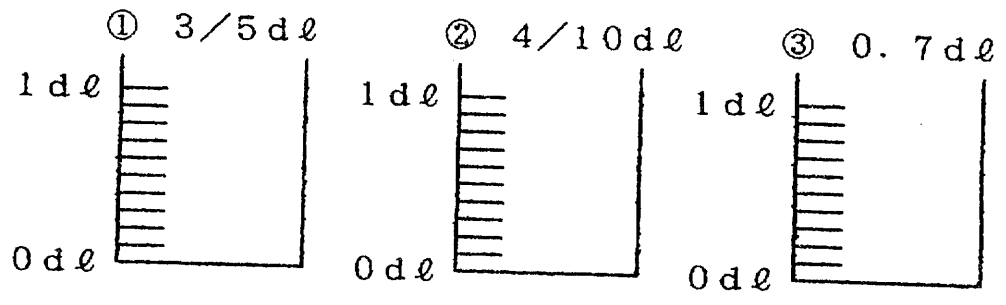
$$\begin{array}{r} 28 \\ + 14 \\ \hline 42 \end{array}$$
  $8 + 4 = 12$   

$$\begin{array}{r} 20 + 10 = 30 \\ \hline 42 \end{array}$$
 合わせて 42  
 小数第2位までのたし算でも、このように計算するこ  
 とが出来そうです。理由も考えてみよう。

「ヒント3」 小数を整数に直す方法はいくつかありました。  
 ア 1.2は、0.1が12こ  
 イ 1.2の10倍は12  
 ウ 1.2ℓは、12dℓ  
 今までに学習したこれらを今日の学習に役立てられ  
 そうですね。

(2) 事前テスト

1. 次の水の「かさ」を図に表しなさい



2. □に当てはまる数を入れなさい

$2\ell = \square\text{d}\ell$      $4\text{d}\ell = \square\ell$      $1\text{m} = \square\text{cm}$      $10\text{cm} = \square\text{m}$   
 $5.2\ell = \square\ell$  と  $\square\text{d}\ell$      $5.2\ell = \square\ell$  と  $\square\text{d}\ell$

3. 計算しなさい

$2.4 + 1.8$      $1.23 + 0.28$      $3.3 - 2.5$

(3) 自己評価カード

月 日	単元名		時間目
課 題			
※問題の意味が  ・よくわかった ・だいたいわかった ・わからなかった ・とちゅうからわかるようになった	※ときかたについて  ・自分で考えた ・ヒントを見た 0, 1, 2, 3, 全部 ～どのヒントをみてわかりましたか～ 0, 1, 2, 3, ×	※オリエンテーションのどのやり方が使えましたか	
だれの見解がよくわかりましたか			

時	1	2	3
目標	・本単元に関連する既習の想起、整理を行う。	・小数の意味と1/100の位までを理解する。	・1/1000の位までの小数を理解する。
学 習 の 流 れ	<p>『オリエンテーション』 問題 A、B、二つのやかんに牛乳が入っています。この二つの牛乳をリットルます(1/10めもり)にあけて、合わせた量やそのちがいを表そうと思います。</p> <p>*問題理解(まずにあける) (Aは7/10、Bは45/100) *Aは既習、Bは未習の確認。</p> <p>課題 今まで学習したどんなことと関係があるかを考える。</p> <p>*課題把握 ・ハンドサイン *自力解決(予想される考え方) ・小数の仕組み ・小数のたし算 ・小数のひき算 ・小数の表し方 ・分数の表し方 (数の例などで具体的に) *発表し、話し合い、まとめる。 話し合う観点を明確にし、関連ありそうな既習を整理していく。 *まとめる 小数の仕組みや表し方の学習をもとにして学習する。*自己評価</p>	<p>問題 オリエンテーションでのBの牛乳は何リットルといえるか考えてみましょう。</p> <p>課題 1/10の単位では表せないはんばな数の表し方を考えよう。</p> <p>*問題理解 *課題把握 *ハンドサイン *答えの見通し(0.4か0.5㍉) *自力解決(予想される考え方) ・デシリットルよりさらに小さなますを使って考える ・デシリットルますに10個のめもりをつけて考える ・分数で考える *発表し話し合う。 デシリットルますは、リットルますに10のめもりをつけて表しているもので、それを0.1リットルとしたことを思い出す。 *0.01の読み方の指導 *まとめる 0.1をさらに小さくすると0.01のくらいになる。 *練習問題 *自己評価 *次時の見通し</p>	<p>*前時の見通しの確認 問題 マラソンでは、42195mを走ります。その長さを、kmを単位で表してみましょう。</p> <p>課題 1/100では、表せないはんばな数の表し方を考えよう。</p> <p>*問題理解 *課題把握 *ハンドサイン *答えの見通し(42kmくらい) *自力解決(予想される考え方) ・数直線を使って ・1/100をさらに1/10にしたものを使って ・0.01の1/10をもとにして *発表し話し合う。 前時の学習を想起させ、そのまとめと対比させながら。 *0.001の読み方の指導 *まとめる 0.01をさらに小さく1/10に分けていくと0.001のくらいになる。 *練習問題 *自己評価 *次時の見通し</p>



時	8	9	10
目標	位のそろっていない小数のたし算の計算方法を理解する。	繰り下がりのない小数のひき算の計算方法を理解する	位のそろっていないひき算の計算方法を理解する。
学 習 の 流 れ	<p>* 前時の見通しの確認 問題 ○○先生は、きのう1.45リットルの牛乳を飲み、今日、0.8リットル飲みました。2日間合わせると何リットル飲んだことになりますか。</p> <p>* 問題理解 * 立式させる 1.45 + 0.8 課題 位のそろっていない小数のたし算の計算方法を考え、説明しよう。</p> <p>* 課題把握 * 答えの見通し (2~3㍉くらい) * ハンドサイン * 自力解決 &lt;予想される考え方&gt; ・0.1をもとに整数計算で ・デシリットル単位をもとに ・筆算で ・数直線、線分図、図で * 発表し、話し合う。 * 位をそろえることに着目しながら * まとめる * 位をそろえると、整数と同じように計算できる。 * 練習問題 自己評価 * 次時への見通し</p>	<p>* 前時の見通しの確認 問題 ○○さんの家に米が8.25kgありました。そのうち2.63kg食べました。残っている米の重さはいくらでしょうか。</p> <p>* 問題理解 * 立式させる 8.25 - 2.63 課題 小数のひき算の計算方法を考え、説明しよう。</p> <p>* 課題把握 * 答えの見通し (5~6kgくらい) * ハンドサイン * 自力解決 &lt;予想される考え方&gt; ・0.1をもとにして、そのいくつ分を考えて ・0.01をもとにして整数計算で ・数直線、線分図を使って * 発表し、話し合う。 * 何をもとにすれば簡単に計算できるかを考える。 * まとめる * 0.01をもとにすると、整数と同じように計算できる。 * 練習問題 自己評価 * 次時への見通し</p>	<p>* 前時の見通しの確認 問題 ○○君の走り幅跳びの記録は、3.23mで、○○さんの走り幅跳びの記録は2.8mです。二人の違いは、何メートルでしょうか。</p> <p>* 問題理解 * 立式させる 3.23 - 2.8 課題 位のそろっていない小数のひき算の計算方法を考え、説明しよう。</p> <p>* 課題把握 * 答えの見通し (40cm 1m以下) * ハンドサイン * 自力解決 &lt;予想される考え方&gt; ・0.1をもとに整数計算で ・cmの単位に直して ・筆算で ・数直線、線分図、図で * 発表し、話し合う。 * 位をそろえることに着目しながら * まとめる * 位をそろえて、整数と同じように計算できる。 * 練習問題 自己評価 * 次時への見通し</p>

時	1 1	1 2
目標	位のそろっていない小数のたし算の計算方法を理解する。	本単元の学習内容についての定着を図る。
学習の流れ	<p>* 前時の見通しの確認。</p> <p>問 題  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ○○先生は、4 mの長縄から0.34mのひもを切り取って使いました。今残っているなわの長さは、何mになりますか。                 </div> </p> <p>* 立式し、前時との違いを見付ける                  課 題  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     位のそろっていない小数のたし算の計算方法を考え説明しよう                 </div> </p> <p>* 課題把握</p> <p>* 答えの見通し (4 mより短い)</p> <p>* ハンドサイン</p> <p>* 自力解決 &lt;予想される考え方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0.01をもとに整数計算で</li> <li>・ cmをもとにして</li> <li>・ 筆算で</li> <li>・ 数直線、線分図、図で</li> </ul> <p>* 発表し、話し合う。 位をそろえることに着目しながら</p> <p>* まとめる。 位をそろえて、整数と同じように計算することができる。</p> <p>* 練習問題 自己評価</p> <p>* 次時への見通し</p> <p>* れんしゅう2</p>	<p>れんしゅう2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小数のたし算</li> <li>・ 小数のひき算</li> <li>・ 文章問題</li> </ul> <p>まとめの練習</p>